

総務教育常任委員会資料

(平成23年5月20日)

【件名】

- 1 東日本大震災に係る教育委員会の対応について（教育総務課）…………… 1
- 2 一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について（教育環境課）…………… 2
- 3 第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について
（教育環境課・文化財課）…………… 3
- 4 「未来を拓くスクラム教育」推進事業について（小中学校課・高等学校課）… 5
- 5 「とりっこドリル」の完成について（教育センター）…………… 8
- 6 平成24年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項について
（小中学校課・高等学校課・特別支援教育課）…………… 12
- 7 むきばんだ史跡公園の復元集落及び遺構露出展示施設の完成について
（文化財課）…………… 13
- 8 学校給食における県内産食材の使用状況及び取組について
（スポーツ健康教育課）…………… 15
- 9 平成22年度新体力テスト調査結果について（スポーツ健康教育課）…………… 18

教育委員会

東日本大震災に係る教育委員会の対応について

平成23年5月20日
教 育 総 務 課

1 被災地から避難してきた児童・生徒への対応

(1) 入学・転入学・編入学

- 高校生 : 転居先が決定した後、県教育委員会が本人や保護者等との面談を行い、受入れ校を決定
 - 小・中学生 : 転居先が決定した後、転居先の市町村教育委員会が受入れ校を決定
- 【入学決定者の人数(5月1日現在)】
24人 (内訳: 小学校13人、中学校6人、高等学校5人)

(2) 入学等をした児童・生徒の教科書・学用品・通学用品

① 県立高等学校・県立特別支援学校の高等部

区 分	対 応 方 針
教科書・副読本・その他の教材	○卒業生や在校生等から使用しなくなったものの提供を受け、各学校で保管・配付
制服・体操服・上履きなど各学校で揃える物	○卒業生や在校生等から使用しなくなったものの提供を受け、各学校で保管・配付 ○他の生徒と異なる物でも可(各学校に柔軟な対応をするよう周知徹底)
その他の学用品・通学用品(カバン・自転車・傘など)	○卒業生や在校生等から使用しなくなったものの提供を受け、各学校で保管・配付 ○足りない場合は生活福祉資金等で対応

② 県立特別支援学校の小学部・中学部

教科書は無償給与

教科書以外は「県立高等学校・県立特別支援学校の高等部」に同じ

③ 市町村立小学校・中学校・特別支援学校

市町村教育委員会に対し、「県立特別支援学校の小学部・中学部」と同様の対応を依頼

(3) 被災して保護者を亡くすなどした児童・生徒への支援

本県内に避難し、本県内の学校等に入学・転入学・編入学する児童・生徒に対して、入学支度金を支給する制度を創設(3/31に高校生1人に20万円を支給)

【支給額】

小学校、中学校、特別支援学校(小学部・中学部)	1人当たり 10万円
高等学校、特別支援学校(高等部)、高等専門学校、専修学校(高等課程)	1人当たり 20万円

2 被災地(宮城県石巻市)への対応

本県が支援を行っている宮城県石巻市への人的支援を実施

(1) 指導主事(教員)の派遣

石巻市の小・中学校が再開されるまでの準備や再開後の学校運営を支援するため、指導主事(教員)を2人派遣
※4/12~27と4/18~27に1人ずつ派遣

(2) 教育相談員(スクールカウンセラー)の派遣

石巻市教育委員会からのスクールカウンセラー派遣要請を受け、各教育局に配置している3人の教育相談員(臨床心理士)を5月末から7月上旬まで派遣の予定
※3人でローテーションを組んで、1人が2週間ずつ、計6週間の派遣

3 その他

(1) 県立図書館における避難者等への情報提供

被災地から本県に避難してきた方や被災地に親族や知人がいる方などに被災地の情報を提供するため、館内に「東日本大震災に関する情報コーナー」(被災地の地方紙や関連書籍など)を設置するとともに、ホームページにも充実した情報を掲載

(2) 職員災害応援隊への職員派遣

石巻市の避難所運営を支援する職員災害応援隊に13名派遣
関西広域連合の宮城県現地事務所に1名派遣

一定額以上の工事又は製造の請負契約の報告について

平成23年5月20日
教育環境課

工 事 名	工事場所	契約の相手方	契約金額	工 期	契約年月日	摘 要
県立岩美高等学校教室棟耐震改修工事(建築)	岩美郡岩美町浦富	やまこう建設株式会社	192,570,000円 (予定価格 212,497,950円)	平成23年4月15日～ 平成23年10月31日	平成23年4月14日	
県立八頭高等学校管理教室棟耐震改築工事(建築)	八頭郡八頭町久能寺	株式会社懸樋工務店	214,515,000円 (予定価格 236,933,550円)	平成23年4月20日～ 平成23年12月10日	平成23年4月19日	
県立青谷高等学校教室棟耐震改修工事(建築)	鳥取市青谷町青谷	田中工業株式会社	132,825,000円 (予定価格 146,110,650円)	平成23年4月4日～ 平成23年10月31日	平成23年4月4日	
県立米子工業高等学校既存校舎解体工事(A工区)	米子市博労町四丁目	やまこう建設株式会社	116,445,000円 (予定価格 128,881,200円)	平成23年4月21日～ 平成23年10月31日	平成23年4月20日	
県立米子工業高等学校既存校舎解体工事(B工区)	米子市博労町四丁目	馬野建設株式会社	126,525,000円 (予定価格 139,973,400円)	平成23年4月1日～ 平成23年10月31日	平成23年3月31日	

第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会の結果概要について

教育環境課・文化財課
平成23年5月20日

第4回鳥取西高等学校整備のあり方検討会を下記のとおり開催した。

1 日時等

日時：平成23年4月25日（月）午前10時～正午まで

場所：県庁 議会棟 特別会議室

出席者：検討会委員10名

オブザーバー 文化庁文化財部記念物課 佐藤主任文化財調査官

2 概要

県外視察結果の概要を報告するとともに、第3回の意見を踏まえ、課題や問題点を認識するための整備方法を提示し、意見交換を行った。

3 主な意見等

【文化庁主任文化財調査官】

- 東日本大震災が発生し、その復興が問題になっている。また、全国で文化財をいかにまちづくりにつなげていくかが取り組まれている。教育委員会においても、まちづくりの観点から文化財の利活用について、取り組んでほしい。
- 文化庁は移転が大前提であると考えている。現地改築は認められないことを踏まえて検討していただかないと進まない。
- 史跡の中に学校があることで史跡の利活用が十分でない。できる限り早い段階での移転をお願いしている。しかし、早急な移転は不可能であるとのことなので当面は耐震改修が選択肢か、というのが文化庁の立場である。

【学識経験者】

- 整備方法の検討では、今までの意見、理念が十分に反映されず、議論の繰り返しになる。移転計画が必要なことは、既に確認されている。まちづくりの観点からは、学校が史跡の景観を作っているのも問題である。一方、早期の生徒の安全確保と教育環境改善のために学校と文化財が共生・共存していかなければならない。原則に戻り、様々な観点で意見をまとめ、こうあるべきだというものを議論しないといけない。
- 文化庁の意見がそうだからといって、県として現地改築しない方針でよいのか。現地改築が無理なことをあやふやにしたままではよくない。現地改築ができないのなら耐震改修でもいいが、市の整備計画や学校との調整は事務局でしてほしい。
- 現地改築も耐震改修も耐用年数はあまり変わらない。コストが変わらず、景観にも配慮されていれば現地改築でもいいのではないか。

○移転計画がないから困っている。原則は移転であるが、生徒の安全安心が大切なことは皆さん認識されている。現地改築は永遠に学校が残ると認識されるため認められないことを前提にしなければならない。耐震改修はつなぎのものとして、移転先は県教育委員会で真剣に考えてほしい。

【学校関係者】

- 大手登城路の整備で緊急車両の通行に問題が生じ、生徒の安心・安全の機能は低下する。通路を整備すると、第2グラウンドは幅30mとなりグラウンドとは言えなくなる。鳥取市の大手登城路の整備は、現地改築とセットで進められていたものである。耐震改修であれば大手登城路の整備は待つてほしい。
- 学校管理機能を第3校舎へ移すと、学校管理機能が低下してしまう。とりわけ危機管理上問題があり、この案では受け入れられない。
- この委員会の役割は選択肢を提示するものであって、意見を一つにまとめなくてもよいのではないか。現地改築も選択肢の一つであり、検討を止めるのは納得できない。
- 大手登城路の整備をすると、鳥取城跡の文化財としての価値がどれだけ上がるのかわからない。活用が進む程度のことであれば、整備しなくてもよいのではないか。

【鳥取市】

○市の大手登城路の整備計画は学校を現地改築するとか耐震改修するとかの以前の問題である。大手登城路の整備を行うことで鳥取西高校が存続できないとの意見については、この検討会の議論を離れるものである。

4 検討会委員(11名)

▼学識経験者

池本 百代【鳥取女性中央会幹事、まちづくりレディース鳥取会長】

岡田 昭明【鳥取大学名誉教授、県文化財保護審議会会長】

坂出 徹【鳥取商工会議所専務理事】

錦織 勤【鳥取大学教授、県文化保護審議会部会長】(欠席)

濱田由紀子【鳥取県弁護士会副会長】

東樋口 護【鳥取環境大学副学長】

道上 正規【(財)とっとり地域連携・総合研究センター理事長】(座長)

▼学校関係者

青木 節也【鳥取西高等学校校長】

池内 勝彦【鳥取西高等学校PTA会長、同窓会副会長】

松下栄一郎【鳥取西高等学校同窓会副会長】

▼鳥取市

江本 克也【鳥取市教育委員会事務局次長】(林 市文化財課長代理出席)

「未来を拓くスクラム教育」推進事業について

平成23年5月20日
小 中 学 校 課
高 等 学 校 課

1 事業概要

本県教育の重点課題である「学力向上の推進」のため、タワー（先進地域）となる市町村（中学校区）を指定して、校種の枠を超えた一貫性のある教育による先進的な取組を進める。

※詳細は資料1参照

2 タワー地域の指定

〔指定期間〕

平成23年度から平成25年度までの3年間

〔指定地域〕

県内6地域（市町村補助金：1地区1,000千円〈県10/10〉）

- ・岩美町（岩美中学校区）
- ・八頭町（中央中学校区）
- ・倉吉市（東中学校区）
- ・境港市（第一中学校区）
- ・伯耆町（岸本中学校区）
- ・日南町（日南中学校区）

〔主な取組〕

一貫・接続カリキュラムの開発
相互乗入授業の実施 等

〔その他〕

タワー地域の学校へ加配教員配置

※詳細は資料2参照

3 その他事業

- ・連絡協議会の設置・開催

〔メンバー〕 タワー地域の学校・市町教育委員会、県教育委員会の代表

〔回数〕 年2回

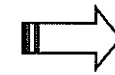
- ・フォーラムの開催

〔内容〕 タワー地域、県外先進地域の取組紹介 等

〔参加〕 県内学校（園）関係者、一般県民 等

学びと指導の鳥取方式

校種間連携による一貫性のある教育の実現



- ・学力向上
- ・体力向上
- ・不登校の未然防止など

チームでのカリキュラム開発

一貫性・系統性のあるカリキュラムを校種を超えたチームで開発

- 接続・スタートカリキュラム (幼保・小1, 小6・中1)
- 外国語教育(外国語活動・英語) 等
- 大学の専門性による開発サポート

スクラム授業の実施

校種相互の特色を生かした授業を実施

- 教科の専門性を生かした授業 (大→高→中→小への乗入、TT)
- 保育・授業体験(小⇄幼保)
- エキスパート教員の活用(兼務)
- 一部教科担任制の導入(小6)
- 学校支援ボランティアの活用

大学

高等学校

中学校

小学校

幼稚園・保育所

【一貫教育モデル地域】

学習カウンセリング

継続した学習状況の把握と確かな学力の定着に向けた補充・発展学習

- 思考力や学び方を問う学力調査
- 学習カウンセリングと補習システム
- 大学の専門性を活用したサポート 等

学校生活のサポート

校種を超えた学校生活サポート体制の構築

- 校種を超えたサポートチーム (養護教諭、スクールカウンセラー等)
- 地域・家庭と連携したサポート 等

- ・教員の重点配置
- ・地域ボランティアによる支援



鳥取県

「未来を拓くスクラム教育」推進事業 《タワー地域の取組》

番号	市町村	中学校区	連携する学校等	加配	主な取組	成果指標・目標(申請段階)
1	岩美町	岩美中	○浦富保、大岩保、みなみ保 ○岩美北小、岩美西小、岩美南小 ○岩美中 ○岩美高	岩美西小 岩美中(数学)	□スタート・接続カリキュラム(算数・数学/小中) □町版学力検定(国・数) □相互乗入授業(保小/小中/中高) □町民参加のシンポジウム	・家庭学習目標時間の達成率【90%以上】 ・一人あたりの年間読書冊数【↑】 ・全国学力調査:算数・数学正答率【↑】
2	八頭町	中央中	○保(計6) ○郡家東小、郡家西小 ○中央中、船岡中、八東中 ○八頭高 ○鳥取大、鳥取環境大	中央中(理科) 八頭高(数学)	□アプローチ・スタートカリキュラム(中高) □学力調査、QU調査等の活用 □相互乗入授業 □合同授業研究会・研修会(中高)	・全国学力調査【+3P】 ・標準学力検査【+5P】 ・生徒アンケート (授業評価、家庭学習時間)【+5P】
3	倉吉市	東中	○東中 ○倉吉東高	東中(国語) 倉吉東高(英語)	□一貫・連携カリキュラム(英・数/中高) □学習・生活カウンセリング、チュータリング □学習診断テストの実施・分析 □相互乗入授業の実施・拡大 □学習交流(中3・高1)	・中・高一貫カリキュラム 【1年次:開発、2年次:実践、3年次:評価】 ・標準学力調査結果【期待正答率+5~10P】 ・生徒アンケート(授業評価)のA評価【↑】 ・全国模試【↑】
4	境港市	第一中	○上道保、梅檀保、聖心幼、美哉幼 ○上道小、境小 ○第一中 ○境高 ○島根大、鳥取大、鳥取環境大	境小 第一中(英語) 境高(英語)	□乗入授業(高→中、中→小)一部教科担任制(小) □個別のつまずきに応じた補充指導、中学校TT □異年齢集団による交流活動 □接続カリキュラム(幼保小/小中) □出前講座、研究室訪問等(高大)	・学習内容到達度調査【前年比+5P】 ・学習習慣定着率【80%】 ・学習の理解度・満足度【前年比+5~10P】 ・接続カリキュラム 【1年次:作成、2年次:試行、3年次:修正】
5	伯耆町	岸本中	○こしき保、ふたば保、あさひ保 ○岸本小、八郷小 ○岸本中	岸本小 岸本中(数学)	□接続(保小)・一貫カリキュラム(数/小中) □乗入授業、つまずきのフォローアップ(小中) □共通の自己評価表の作成(小中) □共通のネットワーク(職員室)構築	・各種学力調査の正答率【↑】 ・学習規律の達成率【80%以上】 ・家庭学習の実施率【80%以上】
6	日南町	日南中	○にちなん保 ○日南小 ○日南中 ○鳥取大等	日南中(数学)	□一貫カリキュラムの開発(国・数・英/小中) □アプローチ・スタートカリキュラムの作成(保小) □相互乗入授業、異学年交流活動 □研修(教育方法/教材開発)←大のサポート	・日南町スタンダード (自主性、基本的な生活習慣、家庭学習等) 【+20~30P】 ・学習意欲(自己効力測定尺度)【↑】

とりっこドリルの完成について

平成23年5月20日
教育センター

1 とりっこドリルの趣旨

県内小中学生（特別支援学校を含む）の国語、算数・数学における基礎的基本的な知識や技能の定着と学習習慣の確立をめざし、本県独自の教材として「とりっこドリル」の開発を行ってきた。

2 教材作成の経過及び今後の予定

平成22年度	<ul style="list-style-type: none">・協力校：小1～小4に第Ⅰ期ドリルを配布（4月）・協力校以外：第Ⅰ期分を教育センターホームページに公開（4月）・第1回教材開発検討委員会（5月）・協力校での第1回目の試行実施及びアンケート実施（8月）・第2回教材開発検討委員会（9月）・協力校での第2回目の試行実施及びアンケート実施（12月）・協力校での第Ⅰ期ドリルの活用状況アンケート実施（1月）・第3回教材開発検討委員会（2月）・国・算（数）ともに小5～中3の第Ⅱ期ドリルが完成（3月）
平成23年度	<ul style="list-style-type: none">・協力校：小1に第Ⅰ期ドリルを、小5～中3に第Ⅱ期ドリルを配布・協力校以外：第Ⅱ期分を教育センターホームページに公開・小1～中3までのドリルの内容の加筆修正・訂正を蓄積・県内小、中、特別支援学校にドリルを3部ずつ配布予定 ※各校で随時印刷・活用するための原稿として、とじていない状態のものを配布する。

3 教材の特徴

(1) 小1～中3までの段階を2期に分け、分冊

- ① 学年の進行に即して見通しが持てるよう、第Ⅰ期（小1～小4）と第Ⅱ期（小5～中3）に分けた分冊とした。
- ② 児童・生徒の興味関心や自らの学習進度に合わせて学習に取り組み、個々の学習習慣の確立に役立つものとした。

(2) 基本から発展へ教科書の学年にとらわれない内容

基本は該当学年の内容を中心としながらも、上位学年の内容も発展として盛り込んだ。

(3) 児童・生徒の実態を踏まえながら、鳥取県らしさを加味した教材

鳥取県の風土や文化に親しみを持ち、郷土とのつながりが身近に感じられる内容を加味した。

(4) 問題編に対応した解答編

児童・生徒が自分で解答の確認ができる解答編を作成した。

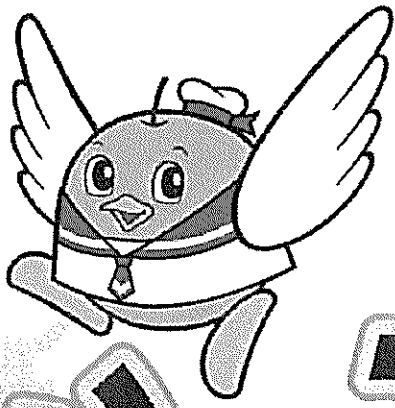
4 教材の活用促進

(1) 広報

- ・「とっとり夢ひろば」への掲載
- ・校長会への働きかけ
- ・各学校のホームページにバナーの貼り付けを依頼

(2) 効果的な活用のあり方についての検討

- ・教材開発検討委員会等において検討

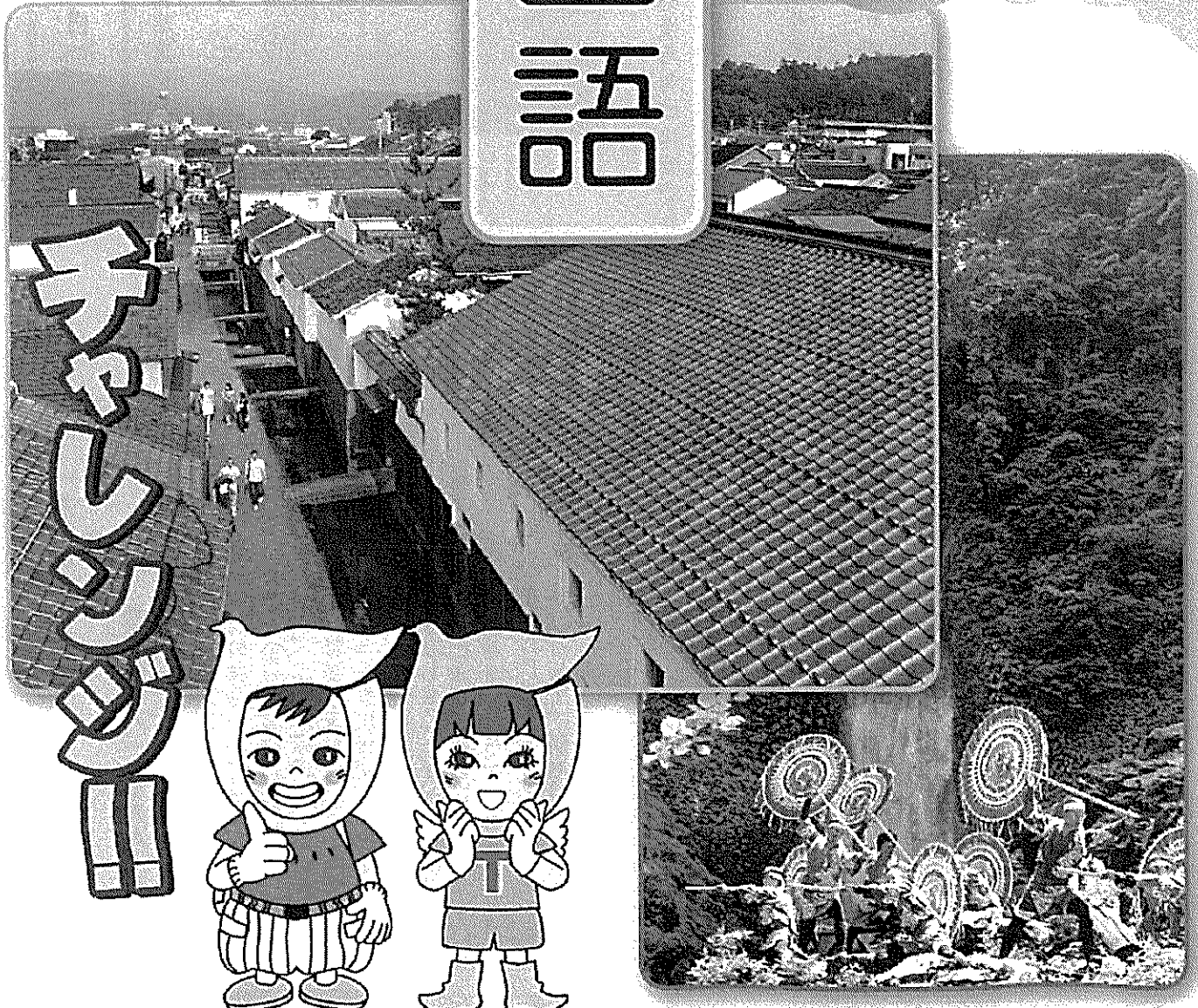


小学5年生～中学3年生

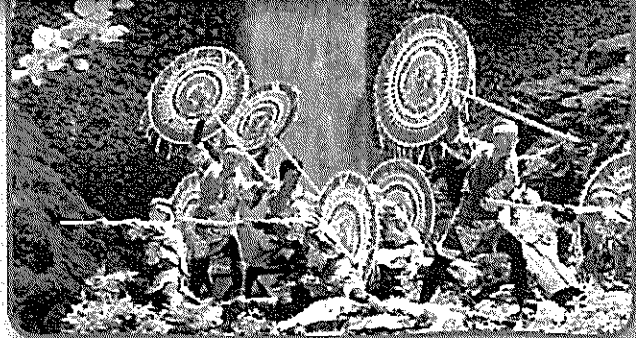
とっくどろり

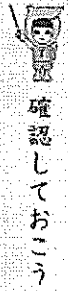
国語

2



とっくどろり





「まるで〜のようだ」「〜みたいだ」という感じから、ある物事の性質や様子を、それと似たものや、似たところのあるものを使って表現することを比喩といえます。

☆ 左の写真を見て感じたことを、比喩を使って表現してみましょう。

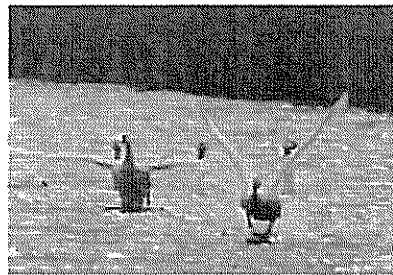


まるで、

のような、らっきょう畑。

右の形で書きにくい場合は、この欄に自由に書きましょう。

☆ 左の写真を見て感じたことを、比喩を使って表現してみましょう。



コバクチョウが、

みたいに羽ばたいている。

☆ 次の慣用句は比喩からきたものです。どちらかを選んで文を作りましょう。

○ 借りてきた猫

○ 蚊が鳴くよう

鳥取の文学散歩

香川 景樹 かげき 歌人(一七六八〜一八四三)

香川景樹は江戸期の歌人です。鳥取藩士荒井小三次の次男として生まれました。父を亡くして伯父である奥村定賢の養子となりました。二十六歳の時、妻を伴って京都に出て、苦学しました。一七九六年、歌の師匠であった香川景柄(かげもと)の養子となりました。一八〇四年、香川家を離縁されて独立しましたが、引き続き香川姓を名づけることは許されました。彼の率いる一派は「桂園派(かつらそのは)」と呼ばれ、晩年には門弟一千を数えるまでに成長しました。そして、明治時代に至るまで、歌壇に大きな影響を与え続けることになりました。

おほみづが 大堰川かえらぬ水に影見えて

ことしもさける山桜かな『桂園一枝』

大井川、その再び帰ることなく流れる水に影を映して、今年も咲いた山桜であるよ

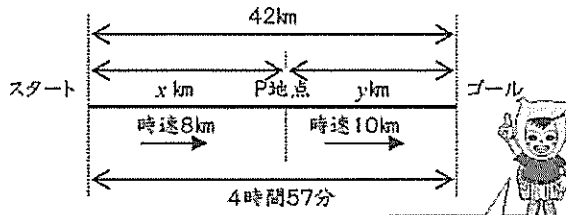
参考 ウェブサイト「やまとうた」

☆読み仮名を書きましよう。

() () () () ()
養子 師匠 門弟

1 けいこさんは鳥取マラソンで初のフルマラソンに挑戦します。完走をめざして次のような作戦を立てました。スタートから、途中のP地点までの前半は時速8kmで走り、P地点からゴールまでは時速10kmで走ることにしました。コースの全長を42kmとすると、この計画なら4時間57分でゴールすることができます。

時速8kmで走った道のりを x km、時速10kmで走った道のりを y kmとして次の問いに答えなさい。



(1) 次の表の空欄をうめて、数量の関係をまとめなさい。

	スタート～P地点	P地点～ゴール	合計
道のり(km)	x	y	42
時間(時間)			$\frac{297}{60}$

(2) (1)を参考にして、連立方程式をつくりなさい。

(3) (2)でつくった連立方程式を解いて、スタートからP地点、P地点からゴールまでの道のりをそれぞれ求めなさい。

(4) 鳥取マラソンでは制限時間があります。27km地点の第4関門(青島大橋前)では、スタート後3時間50分までにここを通過しないと競技を続けることができません。計画どおりのペースで走ると、けいこさんはこの関門を無事に通過できるか答えなさい。(その理由も説明しなさい。)

2 境港駅から岩美駅まで120kmあります。境港駅から岩美駅まで車で行くとき、境港駅から道の駅はわいまでを時速40km、道の駅はわいから岩美駅までを時速60kmで行くと、2時間36分かかった。境港駅から道の駅はわいまでを x km、道の駅はわいから岩美駅までを y kmとしてそれぞれの道のりを求めなさい。

2時間は $\frac{120}{60}$ 時間
36分は $\frac{36}{60}$ 時間だから、2時間36分は $\frac{156}{60}$ 時間になるよ。

3 平成2年度の鳥取県内中学校生徒数と小学校児童数の和は75500人だった。平成22年度は、平成2年度と比べ、小学校児童数で34%、中学校生徒数で38%それぞれ減り、小中学校合わせて27211人減っている。

平成2年度の小学校児童数を x 人、中学校生徒数を y 人として、次の問いに答えなさい。

x 人の $\square\%$ は $x \times \frac{\square}{100}$ (人)だよ。

(1) 次の表の空欄をうめて、数量の関係をまとめなさい。

	小学校児童数	中学校生徒数	合計
平成2年(人)	x	y	75500
平成22年度減少分(人)			27211

(2) (1)を参考にして、連立方程式をつくりなさい。

(3) (2)でつくった連立方程式を解いて、平成2年度の小学校児童数と中学校生徒数をそれぞれ求めなさい。

平成24年度鳥取県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項について

平成23年5月20日
 小 中 学 校 課
 高 等 学 校 課
 特 別 支 援 教 育 課

項 目	平成24年度採用候補者選考試験	平成23年度採用候補者選考試験
実施要項等の交付及び出願期間	平成23年5月12日(木)から 平成23年6月2日(木)まで	平成22年5月13日(木)から 平成22年6月3日(木)まで
試 験 期 日	(一次試験) 平成23年7月16日(土) 平成23年7月17日(日) (二次試験) 小・中学校・県立特別支援学校・養護教諭 平成23年9月12日(月) ～9月15日(木) 高等学校教諭 平成23年9月16日(金) ～9月17日(土)	(一次試験) 平成22年7月17日(土) 平成22年7月18日(日) (二次試験) 小・中学校・県立特別支援学校・養護教諭 平成22年9月6日(月) ～9月8日(水) 高等学校 平成22年9月9日(木) ～9月10日(金)
受 験 資 格	年齢要件 50歳未満(平成24年4月1日現在)	年齢要件 50歳未満(平成23年4月1日現在)
県外現職教諭を対象とした選考	・小学校教諭の現職教諭特別選考を新設 ・本県以外の都道府県に存する公立または国立大学法人が設置する小学校に正式採用教諭として3年以上勤務し、かつ、現在も小学校に勤務している者 ・採用予定数は、小学校教諭の採用予定数に含む ・一次試験は面接試験のみ実施	
身体に障がいのある者を対象とした選考	・身体障害者手帳の被交付者(1級～6級) ・選考試験を実施する全校種・職種 ・採用予定数は、各校種・職種の採用予定数に含む	・身体障害者手帳の被交付者(1級～6級) ・選考試験を実施する全校種・職種 ・採用予定数は、各校種・職種の採用予定数に含む
スポーツ・芸術の分野に秀でた者を対象とした選考	・高等学校卒業後にスポーツ・芸術の分野で優秀な成績を収めた者 ・中学校及び高等学校教諭の選考試験を実施する全教科 ・採用予定数は、中学校及び高等学校教諭の採用予定数に含む	・高等学校卒業後にスポーツ・芸術の分野で優秀な成績を収めた者 ・中学校及び高等学校教諭の選考試験を実施する全教科(科目) ・採用予定数は、中学校及び高等学校教諭の採用予定数に含む
採用予定者数	小学校教諭.....7.0人 中学校教諭.....2.6人 高等学校教諭.....2人 特別支援学校教諭.....1.8人 養護教諭.....8人 計.....124人	小学校教諭.....5.0人 中学校教諭.....1.7人 高等学校教諭.....5人 特別支援学校教諭.....1.4人 養護教諭.....4人 計.....90人
特 徴	【高等学校】 ○「数学」「工業(電気・電子)」のみの実施 ○「工業(電気・電子)」の実施 ・平成19年度選考試験以来、5年ぶり 【中学校】 ○「技術」の中止 ・昭和60年度～平成19年度、平成22、23年度選考試験を実施 【特別選考】 ○小学校教諭の県外現職教諭を対象とした特別選考の新設 ・優秀な教員を確保するため 【全体】 ○小学校教諭の採用予定者数の大幅増 ・今後の退職者の増が見込まれるため ○中学校教諭の採用予定者数の増 ・今後の退職者の増が見込まれるため ○高等学校教諭の採用予定者数の減 ・今後の退職者の減が見込まれるため ・生徒数減少に伴い、定数減が必要のため ○特別支援学校教諭の採用予定者数の増 ・今後の退職者の増が見込まれるため ・高等特別支援学校の開校(平成25年度)に伴う定数増が見込まれるため ○養護教諭の採用予定者数の増 ・今後の退職者の増が見込まれるため	【高等学校】 ○「工業(機械)」の実施 ・平成19年度選考試験以来、4年ぶり ○「数学」「保健体育」「農業(作物・園芸)」「工業(機械)」のみの実施 ・「国語」「地理歴史(世界史)(日本史)」「公民」「理科(化学)(生物)」「芸術(音楽)(美術)」「英語」「家庭」「商業」「情報」の中止 【全体】 ○小学校教諭の採用予定者数の大幅増 ・今後の退職者の増が見込まれるため ○中学校教諭の採用予定者数の増 ・今後の退職者の増が見込まれるため ○高等学校教諭の採用予定者数の大幅減 ・今後の退職者の減が見込まれるため ・学科改編等に伴い、定数減が必要のため ○特別支援学校教諭の採用予定者数の増 ・今後の退職者の増が見込まれるため ○第一次選考試験の選考基準を実施要項に記載 ○高等学校「芸術(音楽)(美術)」「家庭」「英語」の中止に伴う中学校・高等学校の併願可能教科の縮小 ・併願可能教科「保健体育」のみ

むきばんだ史跡公園の復元集落及び遺構露出展示施設の完成について

文化財課

平成23年5月20日

鳥取県立むきばんだ史跡公園では、平成22年度、妻木山地区にて建物復元、遺構露出展示施設等の整備を行いました。

完成した復元集落および遺構露出展示施設は、平成23年4月29日(金・祝)の「新緑まつり」において公開しました。

1 これまでの取り組み

- ・平成11～16年度 洞ノ原地区の整備
四隅突出型墳丘墓群、竪穴住居3、掘立柱建物2ほか
- ・平成17～
今回の妻木山地区の整備と併せてガイダンス施設(弥生の館むきばんだ)整備し、平成22年4月にオープン。



2 復元集落の概要

- (1) 中四国地方で最大規模の弥生時代の復元集落(約18,800㎡、復元建物12棟)
- (2) 集落最盛期(約1800年前)のムラを体感することができる。
- (3) 建物復元の内容

・H20年度 復元高床倉庫4棟

復元仕様	数量(棟)	材料、工事費
屋根倉、茅葺き	3	18,247千円
板倉、茅葺き	1	

・H21～22年度 復元竪穴住居8棟

復元仕様	数量(棟)	材料、工事費
茅葺き	5	71,082千円
骨格のみ(建築中の住居を表現)	2	
土葺き	1	

※今後数年間で、周辺環境整備を行う予定



3 遺構露出展示施設の概要

- (1) 遺構露出展示のための構造、設備を採用し、発掘調査されたままの住居跡3棟を常時室内で見学できる。

(2) 建物の概要

構造 : 木造平屋建て (建設費 98,500千円)

建物規模 : 東西14.2m×南北18.9m、建物面積 269m²

特徴

- ・湿気を調整する換気設備を設置
- ・熱を伝えにくく結露しにくい木を構造材に採用
- ・構造材や内外装材は県産材を使用

(4) 展示物

- ・住居床面に復元土器9個を展示 (製作協力「むきばんだ土器作りの会」)



遺構露出展示施設の外観



同施設の内部



4 今後の活用および周辺整備

(1) 活用 宿泊体験「なりきり弥生人生活」を開催予定

平成23年8月6日(土)~8月7日(日)

(2) 整備 平成23年度事業にて遺構露出展示施設の西側に発掘現場を再現し、子供達が発掘調査の過程を体験できる「発掘体感ひろば(再現発掘現場)」を整備する予定。

学校給食における県内産食材の使用状況及び取組について

平成23年5月20日

スポーツ健康教育課

1 県内産食材使用率の推移

○平成13年度から伸びてきている県内食材の使用率が、平成22年度は62%となった。

(市町村ごと、品目ごとの状況は、別添資料のとおり)

【県平均】

年 度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
使用率	37%	41%	47%	49%	50%	53%	54%	54%	57%	62%

○各市町村が状況に応じた取組を積極的に実施

- ・ 県内産食材の種類・使用頻度・量の見直し
(統一献立の見直し、1回の納入量を調整 等)
- ・ 関係機関との連携強化
(農協での一次加工品の提供、地元取引業者からの情報収集 等)
- ・ 地元生産者との連携強化
(物資の配送方法の確保、安定した納入 等)

2 平成22年度の主な取組

- 学校給食県内産食材活用推進コーディネーターを県学校給食会に1名配置
(市町村との調整や県内産食材の利用促進の働きかけ など)
- 市町村の個別の課題解決に向けた取組を実施するものに対し助成
(下処理調理員や食材供給調整等を行う者の雇用、保管庫や運搬車、食材保管処理を行う機器の購入など)
- 関係機関等による地産地消推進会議の開催(2回開催)
(市町村の学校給食関係者、栄養教諭、JA(生産者団体)等と推進方を協議)
- 地産地消推進について、栄養教諭、学校栄養職員との意見交換会の実施
- 栄養教諭、学校栄養職員を対象に県内産食材を使用した調理方法や新メニュー開発などを行う調理講習会の実施
- 「県民の日」「全国学校給食週間」の取組として、県内産食材を活用した食に関する指導を推進

3 今後の取組

学校における地産地消を推進し、子どもたちに安全安心な食の提供や地域の食文化を伝えることにより、郷土を大切に作る心や感謝の心を育むため、引き続き、市町村及び関係機関と連携して取り組んでいく。

＜平成23年度の主な取組＞

- 学校給食県内産食材活用促進コーディネーターを県学校給食会に1名配置
(課題解決に向けた方策の検討及び市町村への働きかけ など)
- 関係機関等による地産地消推進会議の開催(年1回)
- 地産地消推進について、栄養教諭、学校栄養職員との意見交換会の実施
- 栄養教諭、学校栄養職員を対象に地場産物を使用した学校給食献立調理講習会の実施
- 安全安心のための学校給食調理師研修会の実施

平成22年度 学校給食用食材の生産地別使用状況調査(市町村別)

米、麦、牛乳を除く主な使用食材44品目の使用実態を使用重量の割合でまとめたものである。 平成22年度3学期末集計

市町村	県内産		国内産		外国産		合計	
	使用量 (kg)	使用比率 (%)	使用量 (kg)	使用比率 (%)	使用量 (kg)	使用比率 (%)	使用量 (kg)	
鳥取市	旧鳥取市	177,398	50%	153,371	44%	20,973	6%	351,742
	国府	19,385	64%	10,912	36%	224	1%	30,522
	河原	21,931	72%	8,218	27%	166	1%	30,315
	佐治	3,849	72%	1,458	27%	31	1%	5,338
	気高	17,692	74%	5,535	23%	531	2%	23,758
	鹿野	8,333	74%	2,921	26%	63	1%	11,316
	青谷	8,336	52%	6,418	40%	1,181	7%	15,935
	合計	256,922	55%	188,832	40%	23,170	5%	468,925
米子市		142,788	61%	86,646	37%	4,993	2%	234,427
倉吉市		94,709	67%	40,733	29%	5,095	4%	140,537
境港市		33,027	61%	19,548	36%	1,421	3%	53,996
八頭町	郡家	15,678	66%	7,179	30%	783	3%	23,640
	船岡	6,981	80%	1,579	18%	216	2%	8,776
	八東	8,570	82%	1,715	16%	218	2%	10,503
	合計	31,229	73%	10,473	24%	1,217	3%	42,919
智頭町		8,662	49%	8,010	45%	1,094	6%	17,766
岩美町		21,969	73%	7,558	25%	678	2%	30,205
若桜町		5,660	72%	1,998	25%	230	3%	7,887
湯梨浜町	羽合	22,140	66%	10,129	30%	1,260	4%	33,529
	泊	4,431	75%	1,329	23%	141	2%	5,901
	東郷	13,183	68%	5,439	28%	748	4%	19,369
	合計	39,753	68%	16,897	29%	2,149	4%	58,799
三朝町		17,950	89%	1,817	9%	319	2%	20,086
北栄町		28,652	81%	6,407	18%	178	1%	35,237
琴浦町		34,760	65%	17,847	33%	892	2%	53,499
大山町	中山	8,132	67%	4,056	33%	0	0%	12,189
	名和	10,320	65%	5,262	33%	288	2%	15,870
	大山	10,185	64%	5,453	34%	362	2%	16,000
	合計	28,637	65%	14,771	34%	650	1%	44,059
日吉津村		4,228	74%	1,487	26%	4	0%	5,719
伯耆町		19,014	68%	8,736	31%	42	0%	27,792
南部町	西伯	13,889	66%	7,155	34%	0	0%	21,044
	会見	7,525	65%	3,975	34%	90	1%	11,590
	合計	21,414	66%	11,130	34%	90	0%	32,633
江府町		5,493	73%	1,998	27%	32	0%	7,523
日野町		5,454	74%	1,855	25%	12	0%	7,321
日南町		7,100	64%	3,267	29%	717	6%	11,083
総合計		807,420	62%	450,012	35%	42,981	3%	1,300,413

※個々のデータを四捨五入で入力しているため、合計が100%にならない場合や合計値に若干誤差が生じる場合があります。

平成22年度 学校給食用食材の生産地別使用状況調査(食材別)

区 分		県 内 産		国 内 産		外 国 産		計
		使用量(kg)	使用比率(%)	使用量(kg)	使用比率(%)	使用量(kg)	使用比率(%)	使用量(kg)
野菜類 等	大 根	49,021	75%	16,360	25%	69	0%	65,450
	にんじん	46,366	44%	60,070	56%	0	0%	106,436
	白 菜	36,166	60%	24,013	40%	0	0%	60,179
	キャベツ	72,897	52%	66,312	48%	0	0%	139,209
	ほうれん草	15,366	60%	10,091	40%	0	0%	25,457
	ネ ギ	9,665	71%	3,917	29%	0	0%	13,581
	白ネギ	27,571	100%	86	0%	0	0%	27,657
	きゅうり	34,067	71%	14,199	29%	0	0%	48,266
	ト マ ト	4,968	78%	1,428	22%	0	0%	6,396
	じゃがいも	32,518	34%	62,997	66%	0	0%	95,516
	さといも	13,403	69%	5,883	31%	0	0%	19,286
	さつまいも	20,942	82%	4,468	18%	0	0%	25,410
	たまねぎ	87,871	44%	112,849	56%	816	0%	201,536
	かぼちゃ	6,424	53%	5,359	44%	263	2%	12,046
	フロッコ ロ	15,909	81%	3,652	19%	133	1%	19,693
	ながいも	7,779	96%	317	4%	0	0%	8,096
	たけのこ	4,407	38%	6,750	58%	453	4%	11,610
小 計	485,339	55%	398,751	45%	1,734	0%	885,824	
果 物	りんご	3,571	34%	6,783	66%	0	0%	10,355
	な し	7,914	100%	0	0%	0	0%	7,914
	柿	4,197	100%	11	0%	0	0%	4,208
	ぶ どう	596	93%	48	7%	0	0%	644
	みかん	316	3%	11,855	97%	0	0%	12,171
	メロン	3,566	96%	149	4%	0	0%	3,715
	いちご	909	62%	548	38%	0	0%	1,457
	小 計	21,070	52%	19,393	48%	0	0%	40,464
魚介類	トビウオ	2,824	93%	205	7%	0	0%	3,029
	カレイ	7,717	98%	126	2%	0	0%	7,843
	イカ	7,650	52%	4,460	30%	2,545	17%	14,655
	アジ	11,821	88%	687	5%	849	6%	13,358
	白ハタ	4,852	97%	130	3%	0	0%	4,982
	小 計	34,863	79%	5,609	13%	3,394	8%	43,867
豆 類	大豆	6,923	73%	2,613	27%	0	0%	9,536
	豆腐	46,463	85%	2,681	5%	5,463	10%	54,606
	油揚げ	3,319	47%	559	8%	3,244	46%	7,122
	みそ	15,011	72%	796	4%	4,902	24%	20,709
	おから	1,710	74%	159	7%	439	19%	2,308
	小 計	73,426	78%	6,808	7%	14,047	15%	94,281
食肉類	牛肉(畜シ キ)	34,497	99%	359	1%	0	0%	34,856
	豚肉(畜シ キ)	41,715	95%	2,341	5%	0	0%	44,056
	鶏肉(畜シ キ)	63,647	91%	5,441	8%	1,125	2%	70,213
	小 計	139,859	94%	8,141	5%	1,125	1%	149,125
キノコ類	えのき	10,372	66%	5,324	34%	0	0%	15,697
	しいたけ (生)	724	88%	97	12%	0	0%	821
	干し椎茸	1,164	99%	6	1%	0	0%	1,171
	なめこ	3,002	72%	1,195	28%	0	0%	4,197
	小 計	15,263	70%	6,622	30%	0	0%	21,885
その他	鶏 卵	20,814	95%	1,177	5%	0	0%	21,991
	煮干し	4,361	95%	184	4%	28	1%	4,572
	しょうゆ	12,424	32%	3,327	9%	22,652	59%	38,404
	小 計	37,599	58%	4,688	7%	22,680	35%	64,967
合 計	807,420	62%	450,012	35%	42,981	3%	1,300,413	

※図々のデータを四捨五入で入力しているため、合計が100%にならない場合や合計値に若干誤差が生じる場合があります。

平成22年度新体力テスト調査結果について

平成23年5月20日

スポーツ健康教育課

1 調査対象及び人数

鳥取県内すべての公立小学校・公立中学校・県立高等学校（全日制）の児童生徒数の約10%にあたる人数を抽出した。

※抽出数：7,129名（児童生徒数61,404名）

2 調査項目

(1) 体力テストの調査項目(8項目)

- ・握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ボール投げ

(2) 生活習慣調査項目(7項目)

- ・運動部やスポーツクラブへの所属、運動の頻度（週回数、1日の時間）、朝食の有無、睡眠時間、テレビの視聴時間、パソコン・携帯電話の利用時間

3 調査期間

平成22年 5月～ 7月 調査

9月～12月 集計・分析

12月、 1月 検討委員会

4 調査結果の概要

- ・体力テストの合計点は、中学校2年の男子を除き、すべて全国平均より優っている。
- ・「シャトルラン」、「反復横跳び」は、男女を問わずほとんどの学年で、また、「立ち幅跳び」は、女子のほとんどの学年で全国値より優れている。
- ・一方、「50m走（小学生男子）」及び「ボール投げ（女子）」は、全国値を下回る傾向にある。
- ・年次推移で比較した場合、「50m走」及び「ボール投げ」については改善の兆しが見られるが、「握力（男子）」「長座体前屈」は、近年低下傾向が続いている。

別紙 1

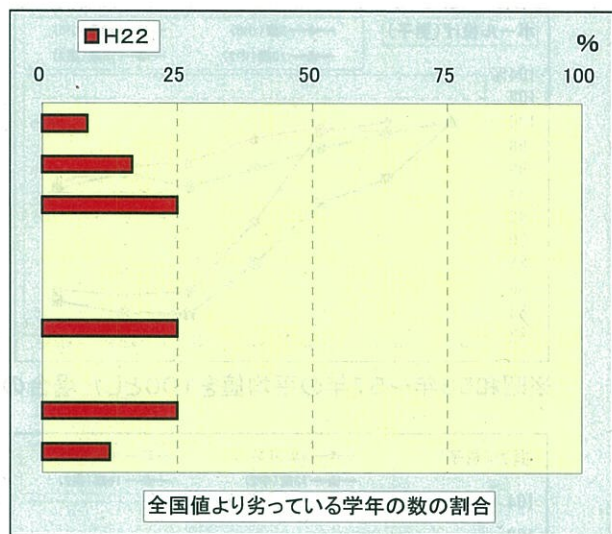
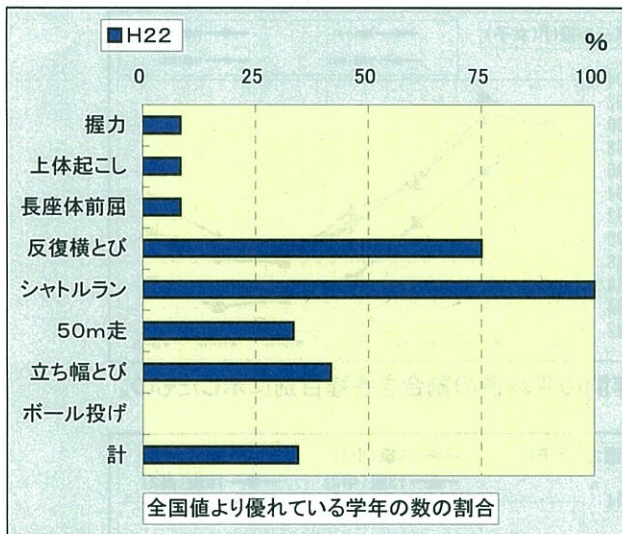
1 新体力テスト合計得点の全国平均値(平成21年度)との比較

		小1年(6歳)	小2年(7歳)	小3年(8歳)	小4年(9歳)	小5年(10歳)	小6年(11歳)	中1年(12歳)	中2年(13歳)	中3年(14歳)	高1年(15歳)	高2年(16歳)	高3年(17歳)
男子	全国	30.53	37.58	43.79	50.02	55.61	61.27	34.13	42.89	49.38	51.65	55.46	58.77
	県	31.29	39.17	44.45	50.93	56.18	61.46	34.36	42.54	50.36	53.23	56.43	60.04
女子	全国	30.28	37.18	43.07	49.82	55.35	61.16	44.49	49.58	50.95	49.91	52.15	53.43
	県	32.13	38.57	45.52	52.20	57.65	61.90	44.75	49.91	52.56	51.38	53.98	55.62

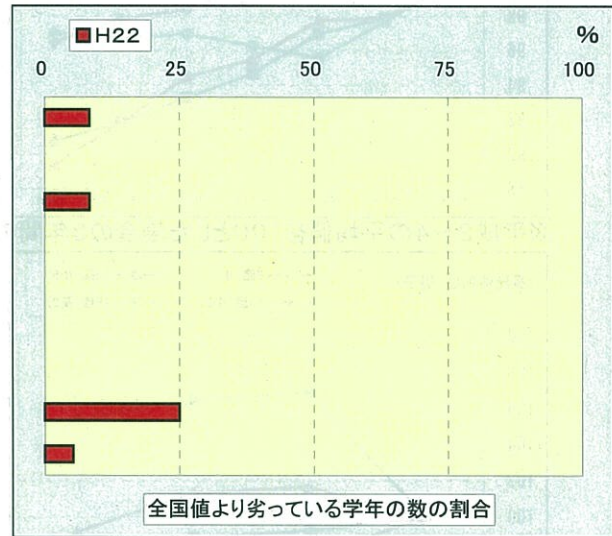
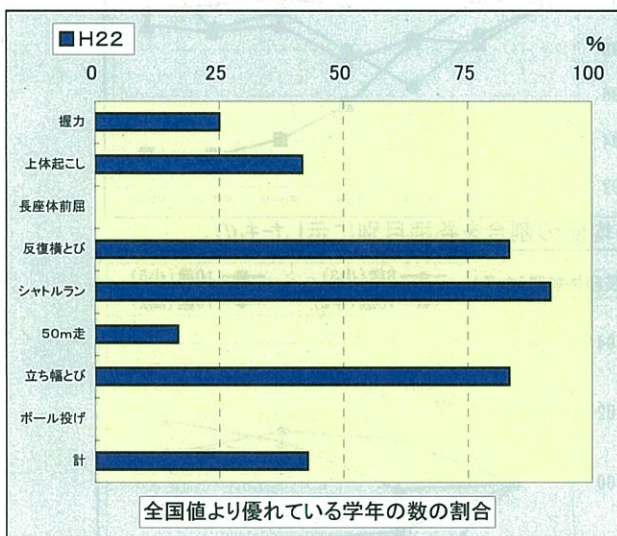
2 Tスコアによる全国との比較(種目別に見た場合)

※全国値(平成21年度)と比較して、各種目ごとの有意差が認められた学年の数(小1~高3・全12学年)の割合

①男子

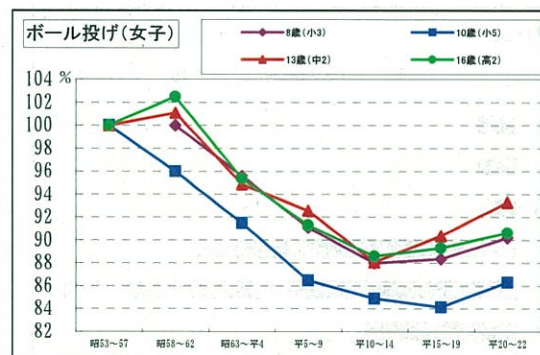
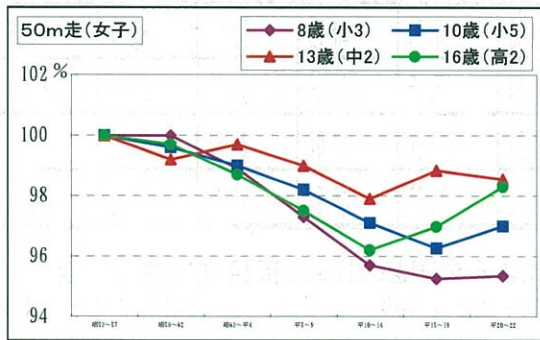
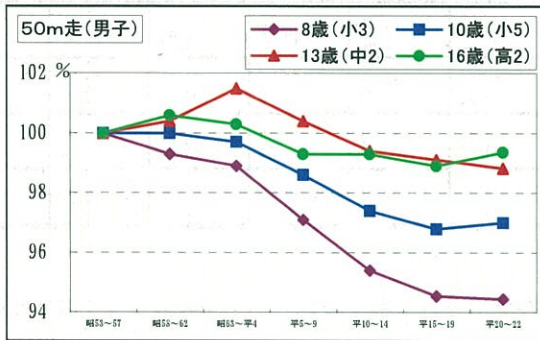


②女子

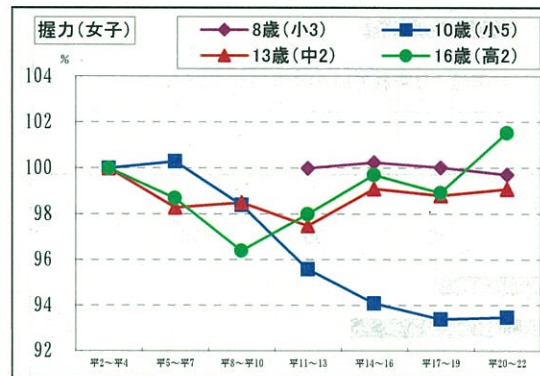
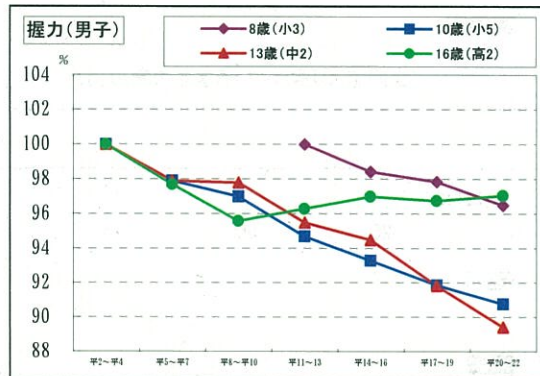


○合計得点は、男女24学年中23学年で全国平均を上回っている。(昨年20学年)
 ○シャトルラン(全身持久力)、反復横跳び(敏しょう性)は、ほとんどの学年で男女とも全国平均より優れている。

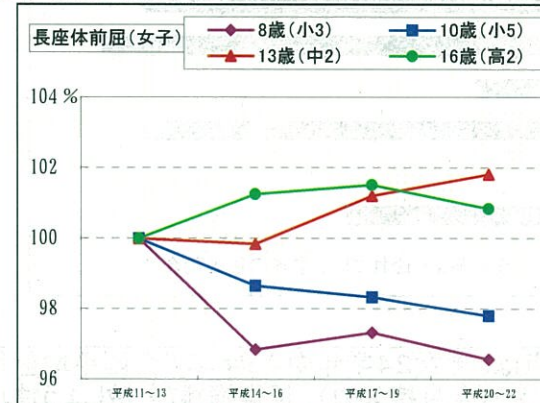
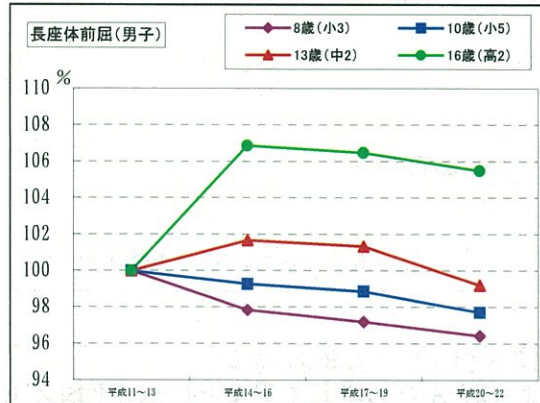
別紙2 「平均値の年次推移」



※昭和53年～57年の平均値を100とした場合の5年間の平均値の割合を各種目別に示したものの。



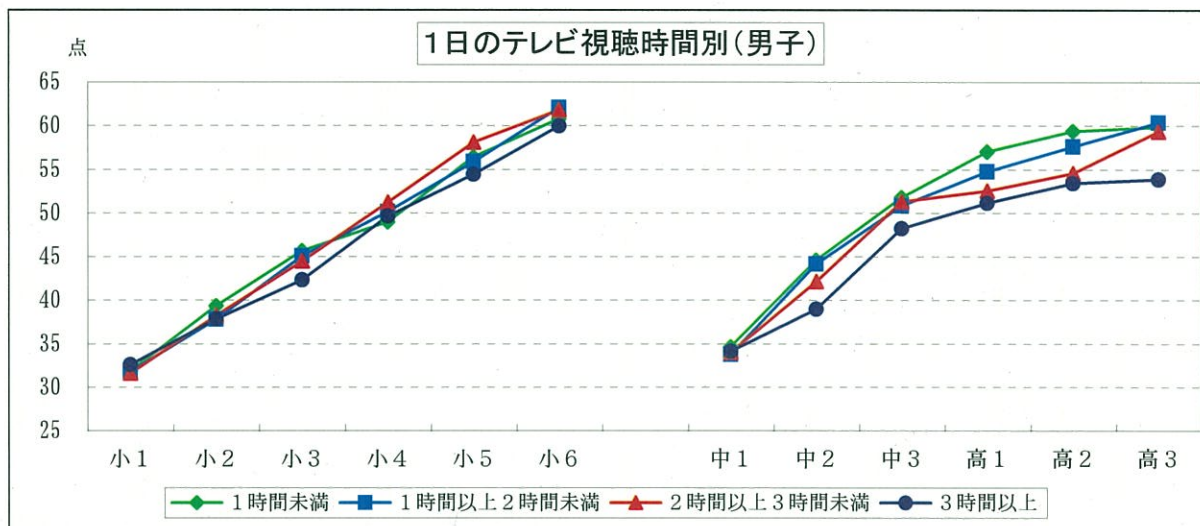
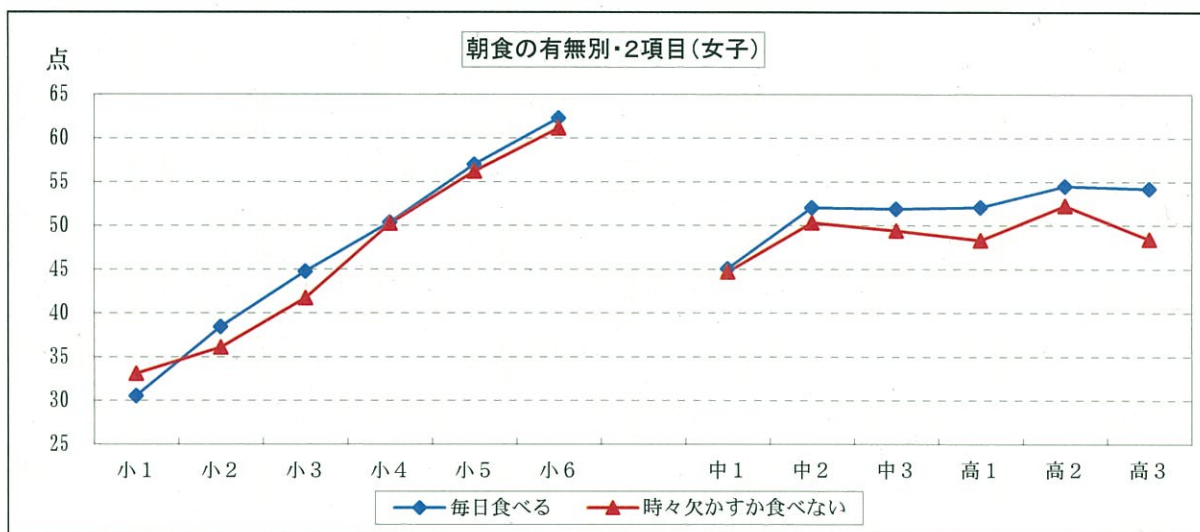
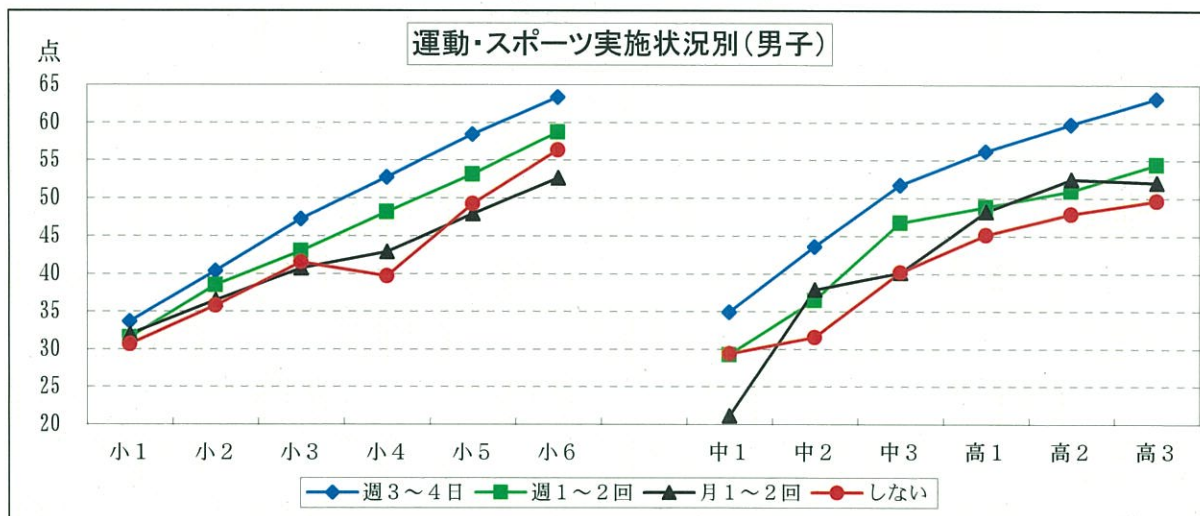
※平成2～4の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したものの。



※平成11～13の平均値を100とした場合の3年間の平均値の割合を各種目別に示したものの。

- 長年本県の課題とされてきた、50m走、ボール投げについては、全体的に低下傾向に歯止めがかかり改善の兆しが伺える。
- 握力については、男子の低下が著しく、高校生を除いて低下が続いている。
- 長座体前屈は、ここ数年低下傾向がみられる。

別紙3 「生活習慣と体力・運動能力の関係」



○運動実施回数が多いほど、体力運動能力得点平均が高い傾向にある。
 ○「朝食の有無」「テレビの視聴時間」と体力得点の関係では、毎日食べる群とそうでない群、3時間以上テレビを見る群とその他の群の差が、中学生や高校生で大きくなっていく傾向にある。